

平成 28 年度 技術情報第 7 号
病害虫名 オリーブアナアキゾウムシ

平成 28 年 10 月 26 日
静岡県病害虫防除所長

県東部地域でオリーブアナアキゾウムシが発生しています。
オリーブ栽培園では、発生に注意して下さい。

1 病害虫名 和名：オリーブアナアキゾウムシ（ゾウムシ科 アナアキゾウムシ亜科）

2 発生作物 オリーブ

3 発生経過及び状況

平成 28 年 9 月下旬に農林技術研究所 伊豆農業研究センターより、県東部のオリーブ生産ほ場で栽培されているオリーブが、株元に穴があり樹勢が弱くなったと、その被害株の地上部にいた虫が持ち込まれた。成虫の形態などにより、オリーブアナアキゾウムシによる加害であることが確認された。

本種はすでに静岡県内で発生が確認されているゾウムシであるが、経済栽培されているオリーブへの被害を確認したのは今回が初めてである。なお、県農業局農芸振興課によると、県内のオリーブ栽培は平成 24 年度から急激に増加し、平成 28 年 7 月現在 17.3ha まで拡大している。

また、平成 21 年 3 月に神奈川県において、経済栽培されているオリーブへの被害を確認したと、病害虫発生予察特殊号第 3 号が発表されている。

4 被害および寄主植物

幼虫がオリーブの幹の皮層と形成層を食害する。多数の幼虫が食入すると、若樹では枯死する。壮齢樹では、衰弱してしだいに着果しなくなる。幼虫の加害中は産卵孔から木屑を排出する。加害部は地際から 40cm くらいに集中するが、地際部も加害されることがある。成虫は新芽、葉柄、樹皮を食害する。

本来、ネズミモチ、イボタノキ等モクセイ科木本を寄主としていた在来種であるが、日本にオリーブが導入されると、こちらを嗜好するため、最も重要な害虫となった。

5 特徴

(1) 形態

成虫は口吻を除き体長 12～15mm、全体暗褐色、口吻の長さは 4mm 内外で腹側にゆるく湾曲し、先端は扁平。翅鞘には粗大な点刻列が 10 本あり、間室は隆起する。体表には灰白～黄褐色の剛毛があり、特に密生した部分には淡色に見える。老熟幼虫は体長約 15mm 内外で、無脚、頭部は茶褐色、胴部は乳白色で深い皺が多い。蛹は裸蛹で乳白色、体長 14mm 内外。

(2) 生態

本州、四国、九州、八重山諸島及び中国に分布。成虫及び幼虫で越冬し、成虫は 3 月下旬～11 月上旬まで活動する。日中にはオリーブの根元周辺の落葉、敷わら、雑草等の下で静止し、夜間に樹上で摂食、交尾、産卵する。地際部の樹皮に口吻で浅い穴を開け、その中に 1 粒ずつ産卵し、その上を粉状物や樹皮の細片で覆う。産卵は 4～10 月の長期にわたって行われる。卵期は夏期では 10 日内外、幼虫期は 2 ヶ月内外で、5 齢を経過し、樹皮から次第に幹の材部に食入し、蛹化する。成虫の寿命は 3～4 年で、生涯産卵数は平均 200 個程度となる。

6 防除対策

- (1) 樹の周辺を周年裸地状態にすると、成虫の定着数が顕著に減少する。
- (2) 薬剤による防除では、スミチオン乳剤の50倍液を主幹に、4～8月にかけて葉、果実にかからないように3回散布する。
- (3) 本種と疑わしい個体及び被害を見つけた場合は、農林事務所及び病害虫防除所に連絡する。



図1 地際部の被害



図2 幼虫



図3 成虫

表1 オリーブアナアキゾウムシの主な防除薬剤*

商品名	使用方法	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	IRAC**作用機構分類
アディオ水和剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	I:3A
ダントツ水溶剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内	I:4A
スミチオン乳剤	樹幹散布	50倍	収穫21日前まで	3回以内	I:1B

*静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 (<http://www.s-boujo.jp>) より抜粋

**世界農薬工業連盟 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) による分類。農薬抵抗性の発達を回避するため、同一コードの薬剤は連用を避ける。

問い合わせ先：静岡県病害虫防除所 (TEL：0538-36-1543)

病害虫防除所 HP (URL)：

<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>

病害虫防除基準 HP (URL)：<http://www.s-boujo.jp/>